

仕事において大切な 3 つの原則…その 1

社会人になって最初に同室になった先輩に、こんなことを言われた。「岩瀬、新人のうちは頭が良いとか優秀だとかはどうでもいいことだよ。それより、上に頼まれた仕事を何がなんでもやり切るかどうか？仕事を頼む側からすると、最も大切なことは、そういうことなんだよ」この言葉は、今でも強く印象に残っている。実際のところ、部下を持つ立場に立ってみると、督促しないと頼まれた仕事に手をつけられない人が、思いのほか多いことに気づきました。「すみません、まだやっていません」「忘れていました」そういう人たちが必ず口にする言葉です。仕事を依頼する立場に立ってみてください。あなたは、彼らを信頼することができるでしょうか。彼らの中には、優秀な成績で入社してきた人材も含まれています。それに対して一度、依頼した仕事は、こちらから催促しなくても必ずやってくれる人がいます。その人たちは必ずしも完璧というものではありません。それにもかかわらず、頼んだことをとりあえず最後までやってくれる人には、また仕事を依頼しようとするものです。社会人になったばかりの人に、仕事に取り組むうえで最も大切なアドバイスを送る時、最初にこれをお話します。

頼まれたことは、何があっても絶対にやり切る。自主的に督促される前に全部やりきる。はじめて経験する仕事、慣れない仕事は自分一人でやり切るのは難しいかもしれません。その場合には「ここまでやりましたが、ここで詰まっています。」という報告ないしあるいは相談を上司にこまめにして、前に進めばいいのです。目指すべきは、100 点満点の出来栄ではありません。かつての上司が言ったようにいくら成績優秀で合っても、何度も督促しない限り頼んだことをやってくれない新人に、積極的に次の仕事を頼む上司はいません。「何があってもやりきるんだ！」という強い意思を持って仕事に臨み、実際にやりきる人だけが信頼されるのです。周囲から信頼に足る人物だと評価されれば、次の仕事が回ってきます。新たな仕事に取り組むことで、経験値が積み重ねられていきます。そのプロセスを重ね合わせていくことで仕事の質が高まり、仕事の量も増加の一途をたどっていくのです。仕事のスキルが上達し、量をこなす速さを身につければ、次のチャンス得ることができます。ほかの人との間にあつたわずかな差が、想像以上のスピードで埋めがたい大きな差に広がっていくのです。だからこそ、頼まれた仕事はとにかくやりきることが重要です。

同室の先輩は、岩瀬氏に何と言いましたか？

()

部下を持つようになって、どんな人が多いと言っていますか？

()

かつての上司は、著者に何と言いましたか？

()

カッコの中を埋めてください。

仕事のスキルが()し、()を身につければ、次のチャンス得ることができます。
ほかの人との間にあつたわずかな差が、()に広がっていくのです。